

## 豊島区の近況について

### 1. 区のプロフィール

|       |                          |               |
|-------|--------------------------|---------------|
| 面積    | 13.01km <sup>2</sup>     | 23区中18番目の大きさ  |
| 人口    | 287,111人                 |               |
| うち日本人 | 258,101人                 |               |
| うち外国人 | 29,010人                  |               |
| 外国人割合 | 10.10%                   | 新宿に次いで23区中2番目 |
| 人口密度  | 22,068人/km <sup>2</sup>  | 全国で最も高い       |
| 世帯数   | 177,671世帯                |               |
| 財政    | 歳入 1,282億円<br>歳出 1,255億円 |               |
| 鉄道    | 10路線21駅                  |               |

※人口等は平成30年1月1日時点、財政は28年度一般会計決算額。

### 2. 近年の区の特徴的な施策

#### ○わたしらしく、暮らせるまち。

ひとりひとりの多様なライフスタイルを大切にすることを基本コンセプトに、子どもや高齢者、障害者、外国人などすべての人にとって、住みやすく、働きやすい、「誰もが自分らしく暮らせるまち」を目指しています。30年度より「女性にやさしい」から「わたしらしく、暮らせるまち」にさらに発展させ、様々な事業を推進しています。

その1つとして、29年4月に待機児童ゼロを達成し、民間調査による「共働き子育てしやすい街ランキング」で全国総合1位となりました。

#### ○国際アート・カルチャー都市

これまで進めてきた文化創造都市づくり、安全・安心創造都市づくりを統合し、さらに発展させていくための新たなまちづくりの方向性を示すものとして、豊島区国際アート・カルチャー都市構想を掲げ、世界からアート・カルチャーの魅力で人や産業を惹きつける都市づくりを進めています。

また、国際アート・カルチャー都市構想の基本コンセプト「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」の実現に向けて、庁舎跡地エリアに「8つの劇場」を含む国際文化拠点「Hareza(ハレザ)池袋」が誕生し、その「Hareza池袋」を中心に、2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに池袋駅周辺の4つの公園が変わります。すでに南池袋公園がリニューアルし、現在は池袋西口公園・中池袋公園・(仮称)造幣局地区防災公園の整備計画が進行中です。同時に、4つの公園と池袋駅を結ぶ新たな移動システムの導入も準備が進んでいます。

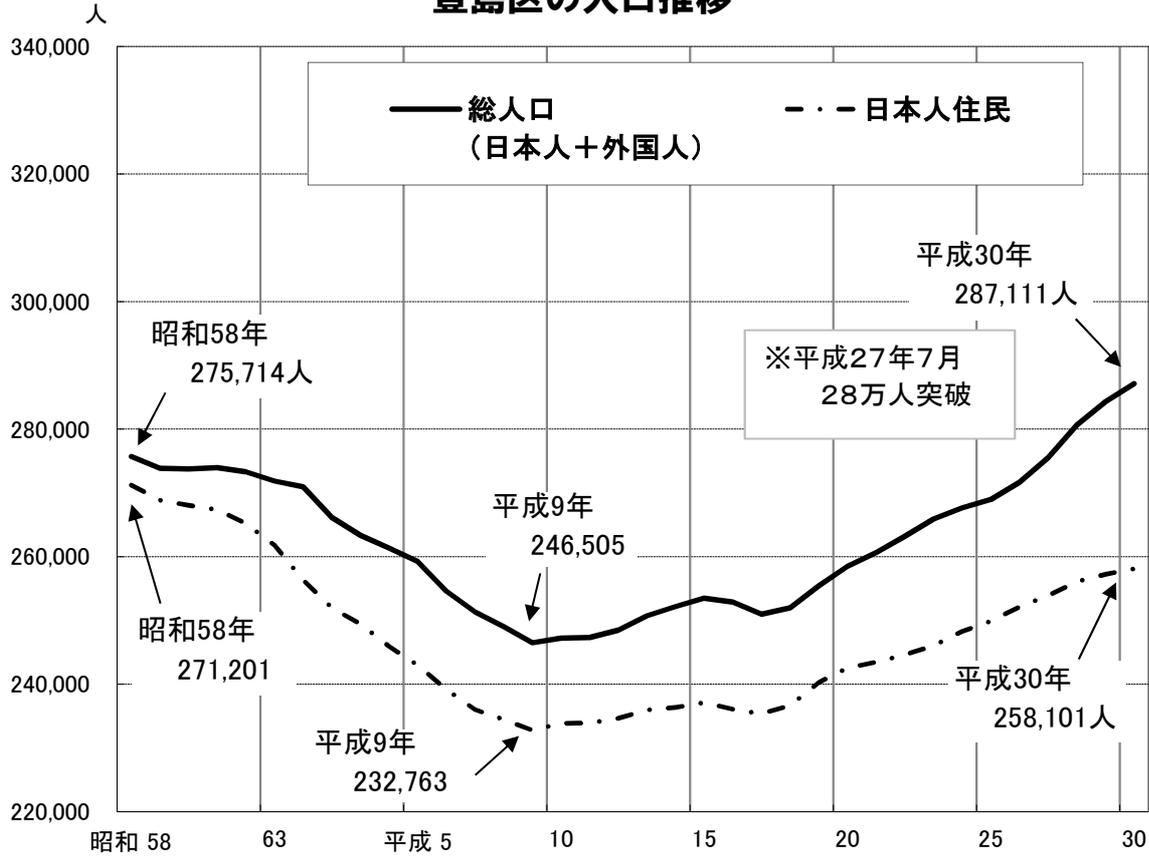
#### ○東アジア文化都市

「東アジア文化都市」は、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化や伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施するものです。

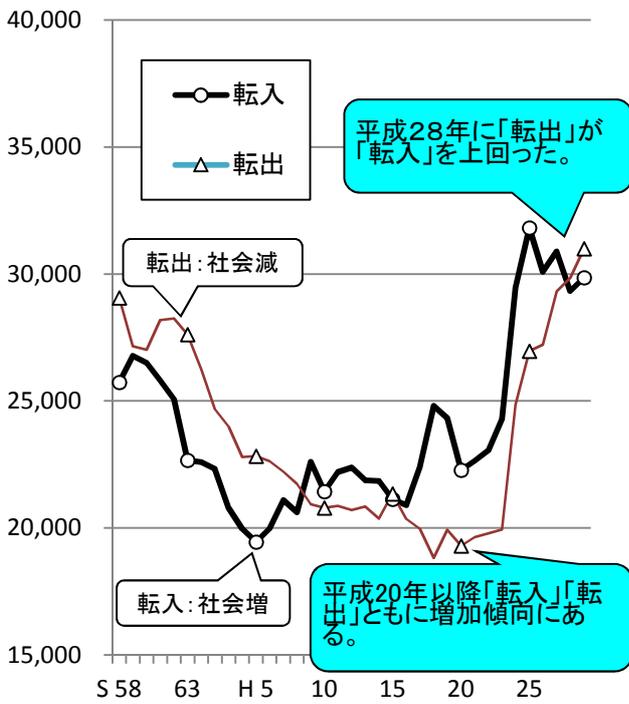
豊島区は、この事業を文化政策の集大成及び、さらなる国際都市推進の起爆剤に位置付け、2019年の開催都市に立候補し、昨年度国内候補都市として選ばれました。

### 3. 人口・世帯に関する動向

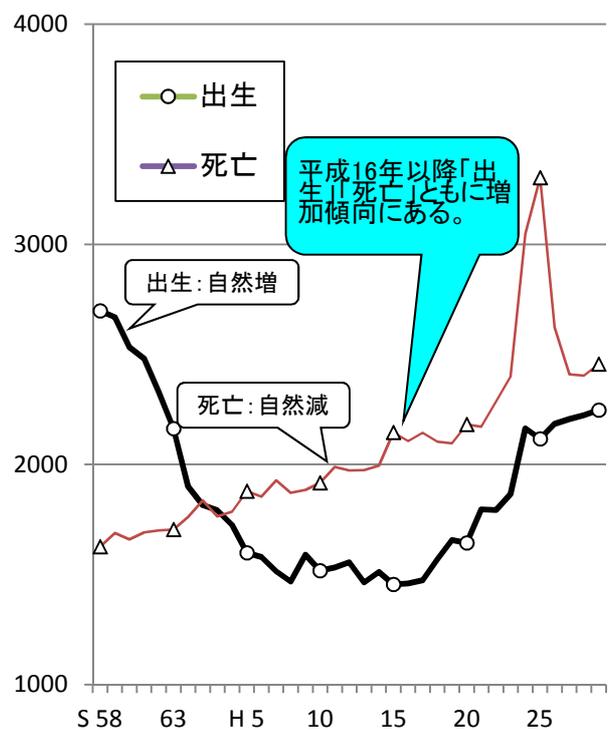
#### 豊島区の人口推移



#### 豊島区人口「社会動態」の推移



#### 豊島区人口「自然動態」の推移



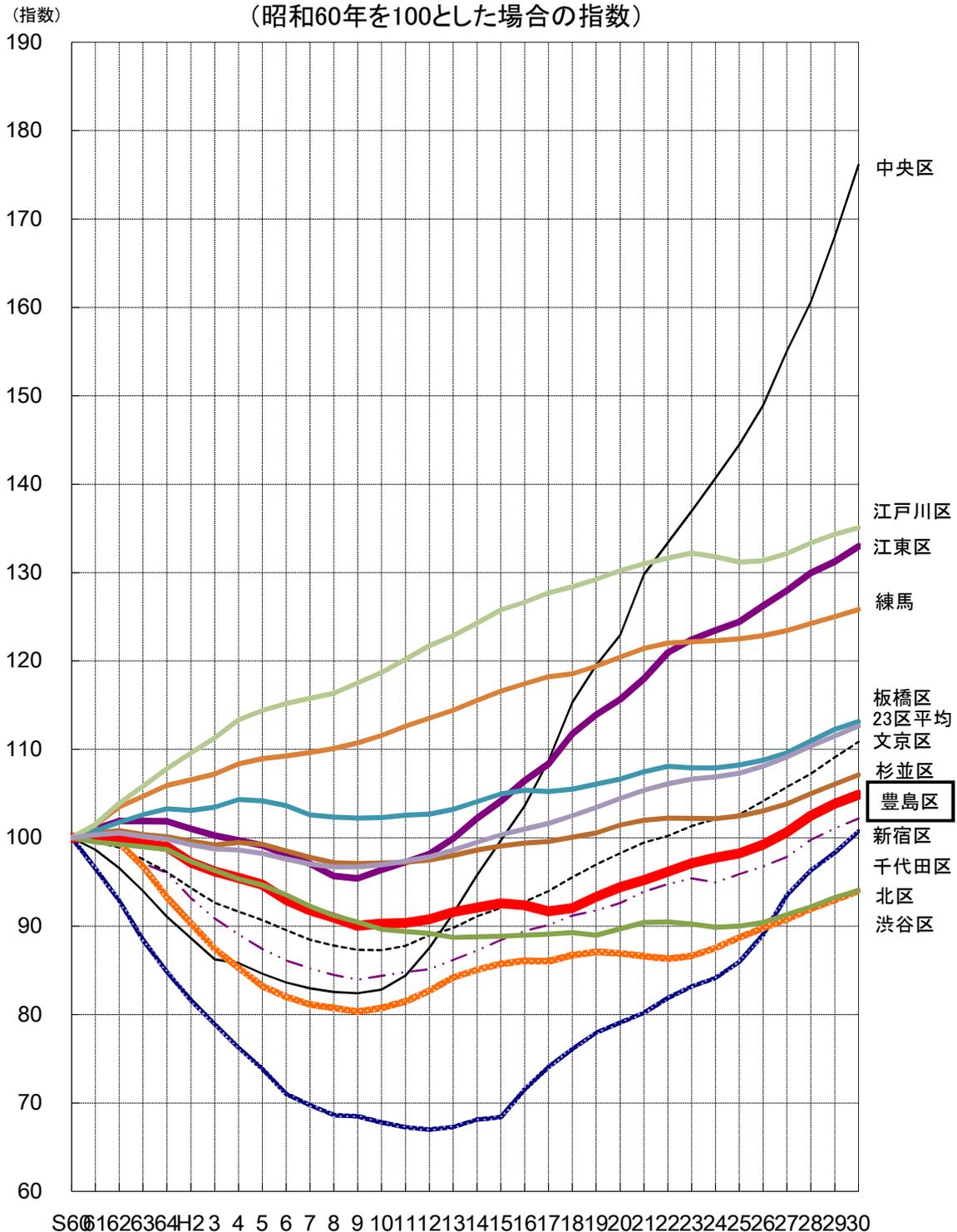
平成9年を底に平成14年まで増加傾向が続いていた区の人口は、社宅の廃止が集中したことや都市計画道路整備に伴う建物の除却などが主な要因となり、平成15年、16年の2年間一時的に減少したが、平成17年には再度増加に転じ、平成30年1月現在287,111人となっている。

区の人口は、近年急速に伸びており、30年は前年比で2,804人の増加であった。急増の原因は外国人住民であり2,804人のうち、約7割の1,950人が外国人住民の増である。

23区の中でも、都心に近い区の人口回帰が顕著である。豊島区においては、平成27年に昭和60年の人口を30年ぶりに上回った。これは都心回帰の影響で区内における新築マンション建設が進み、転入者が増加しているためと考えられる。

また、区の人口密度は平成30年1月現在km<sup>2</sup>あたり22,068人で、全国一の人口密度の高さとなっている。

住民基本台帳人口+外国人登録人口  
(日本人住民+外国人住民)  
(昭和60年を100とした場合の指数)



S6@1626364H23 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30  
23区のうち人口推移に特徴のある区、近隣区などを抽出。

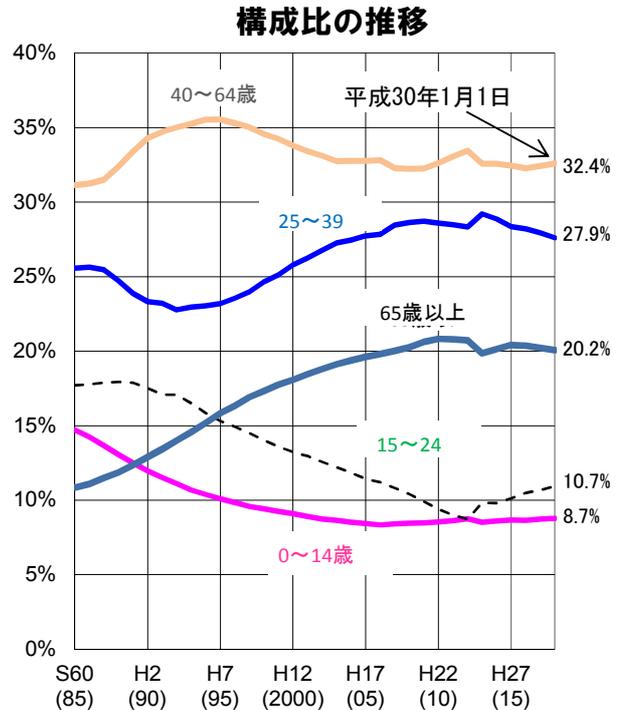
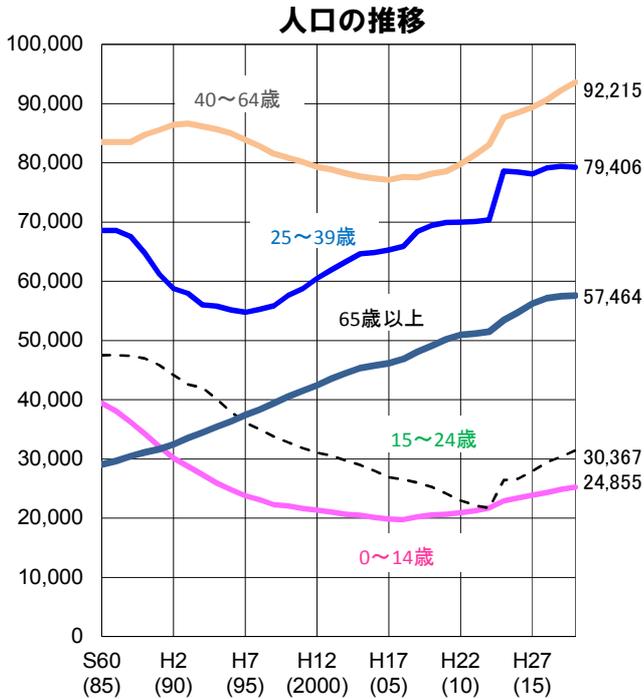
(年)

年齢構成別に人口の推移をみると、65歳以上と40～64歳の年齢層の増加が目立つものの、他の区分でも増加傾向が見られる。直近では0～14歳の年齢層の割合が一番低く、今年（平成27年）は8.7%となっている。一方65歳以上の高齢者の割合は20.2%となっている。

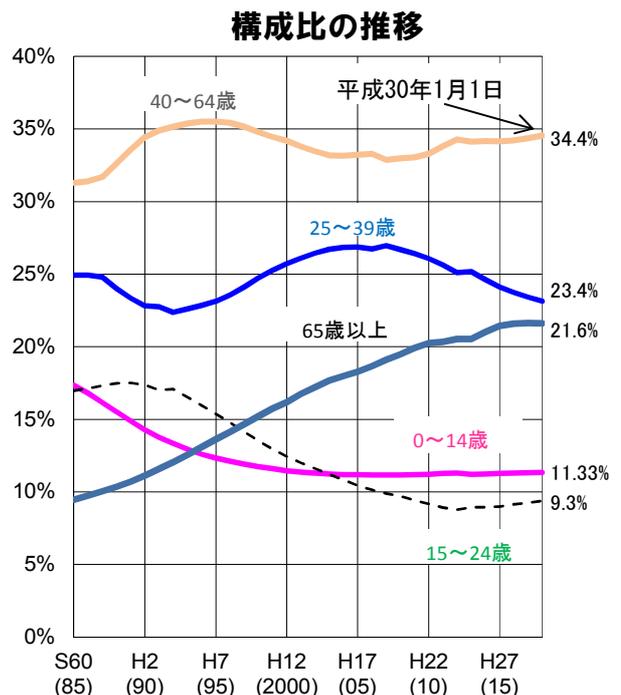
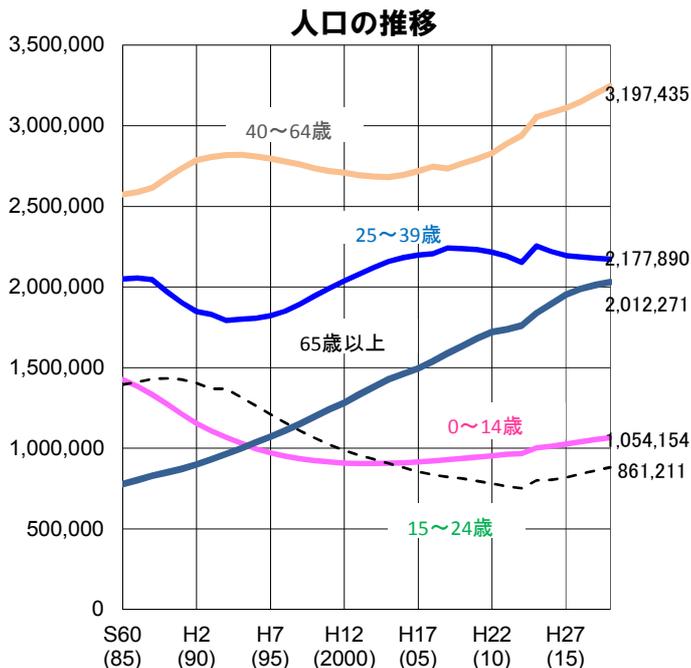
さらに23区計と比較すると、本区においては25～39歳の層の割合が比較的高く、0～14歳の層の割合が低いことがわかる。

## 年齢構成別人口の推移 （住民基本台帳：各年1月1日）

### 豊島区



### 23区

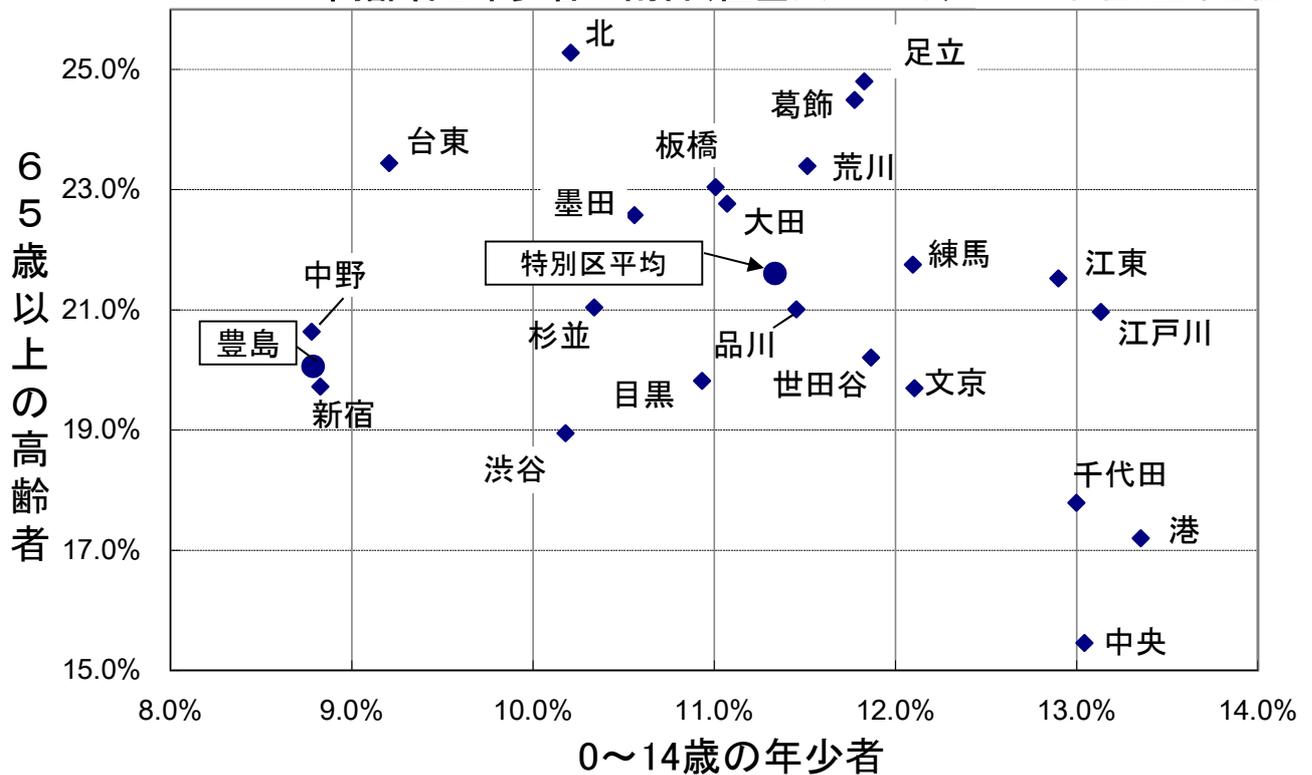


※平成25年以降は、外国人住民数を含む

23区の高齢者の構成比を見ると、北区、足立区、葛飾区などが高くなっており、中央区、港区、千代田区などが低くなっている。また、ばらつきがあるものの、高齢者の割合が低い区は年少者の割合が高くなる傾向が見られる。

一方、年少者の構成比をみると、港区、江戸川区、中央区などが高くなっており、中野区、豊島区、新宿区などが低くなっている。また、この3区は高齢者と年少者の構成比が非常に似ているケースであり、23区の中では高齢者も年少者も割合が少ない集団に位置している。

高齢者と年少者の割合(住基人口のみ) 2018年 住民基本台帳

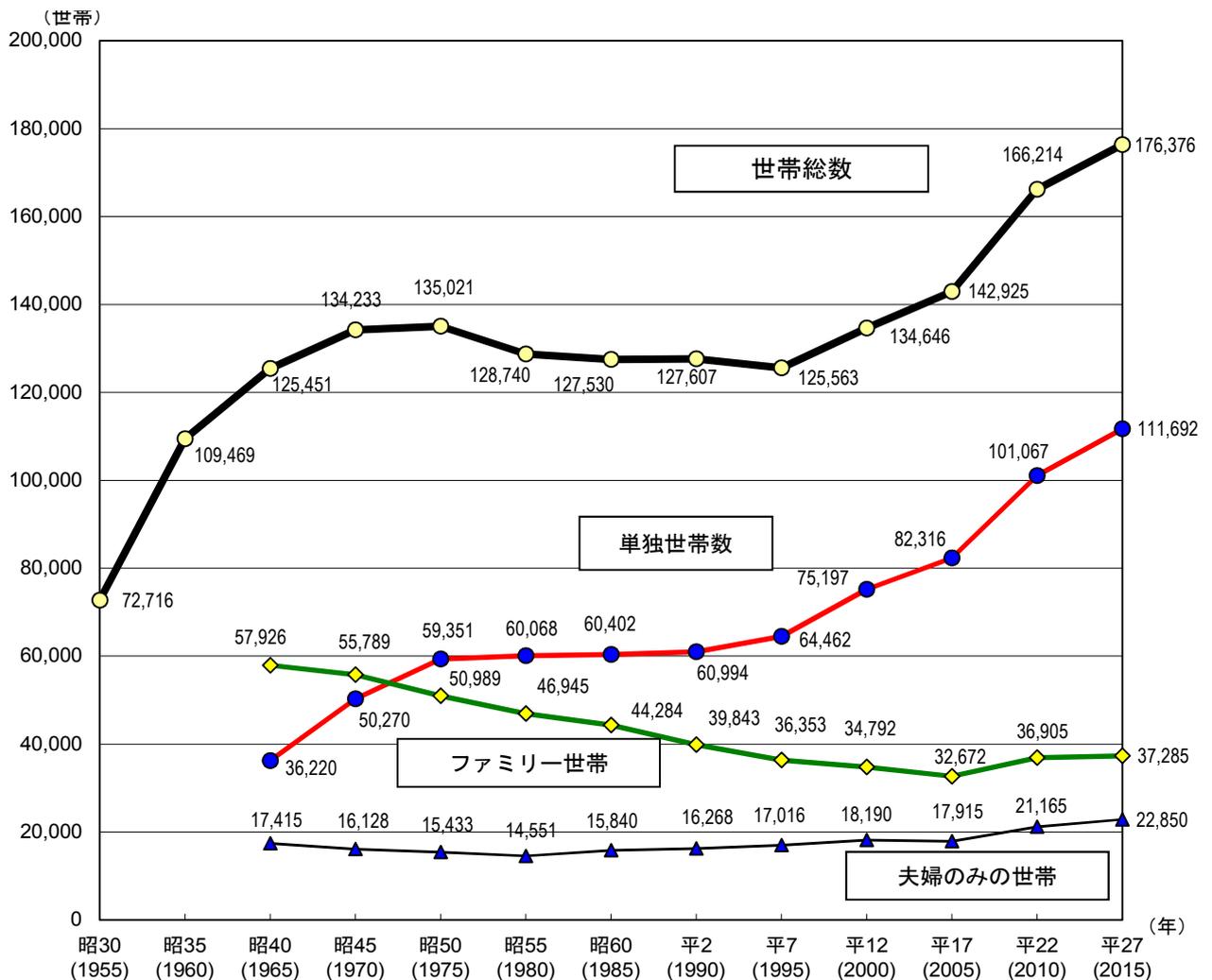


区の世帯数は、平成22年から平成27年までの間に約1万世帯増加し、176,376世帯となった。世帯類型別にみると「単独世帯」「夫婦のみの世帯」「ファミリー世帯」すべての世帯類型で増加しており、中でも単独世帯の増加が著しい。

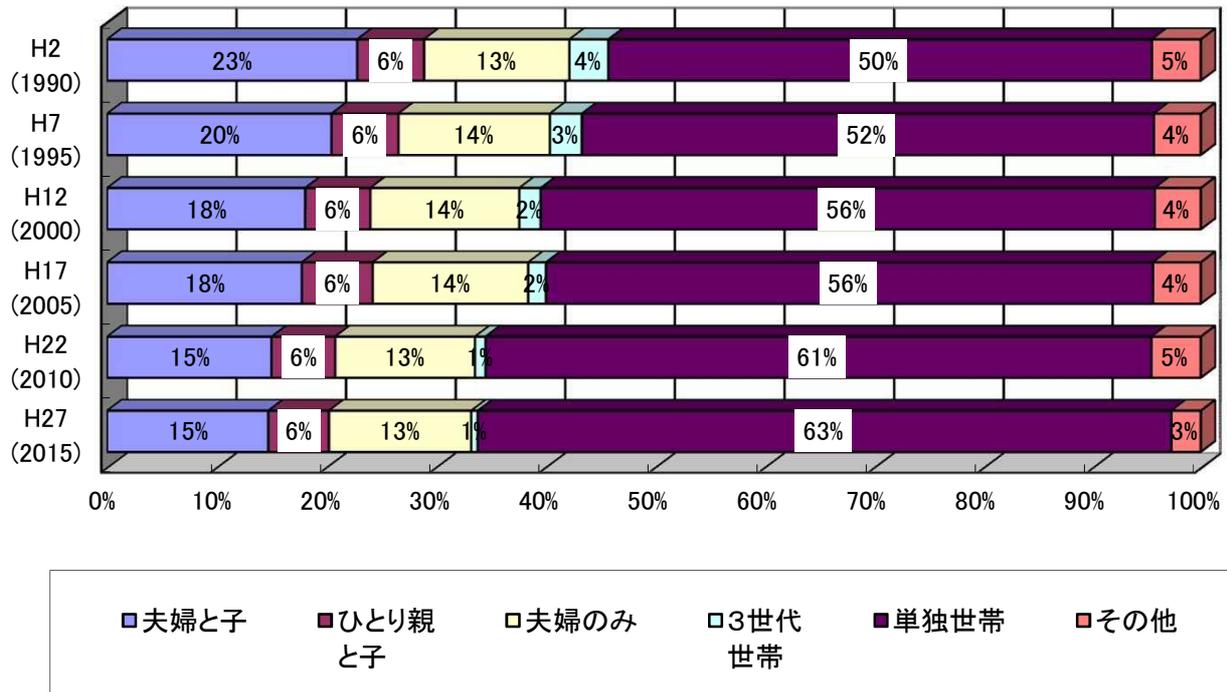
世帯構成の推移を見ると、豊島区においては「単独世帯」が増加しているが、それ以外の分類については、基本的に5年前と変わっていない。特に「単独世帯」の全世帯に占める割合は平成27年で6割を超えている一方、「ファミリー世帯」(夫婦と子の世帯、ひとり親と子の世帯、三世帯世帯の合計)は2割強となっている。

また、豊島区のみならず23区全体においても同様の傾向が見られており、「単独世帯」の増加、「夫婦と子世帯」の減少、その他は横ばいで推移していることがわかる。

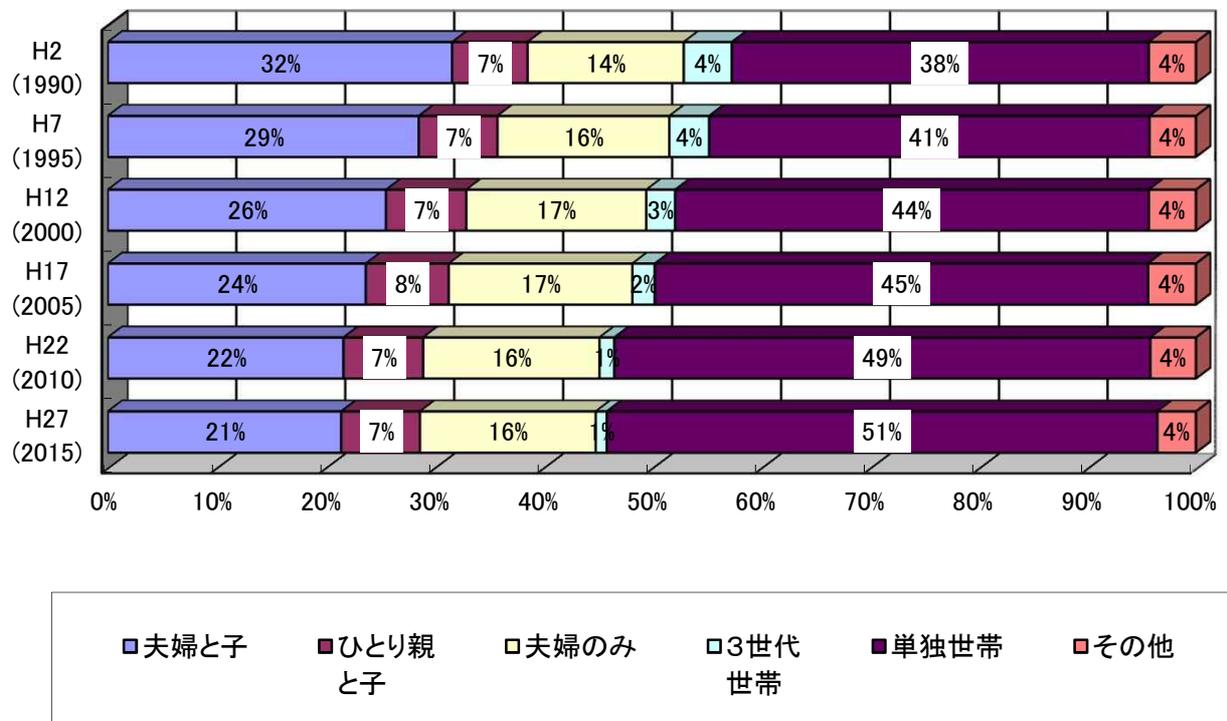
### 一般世帯数の推移 (国勢調査)



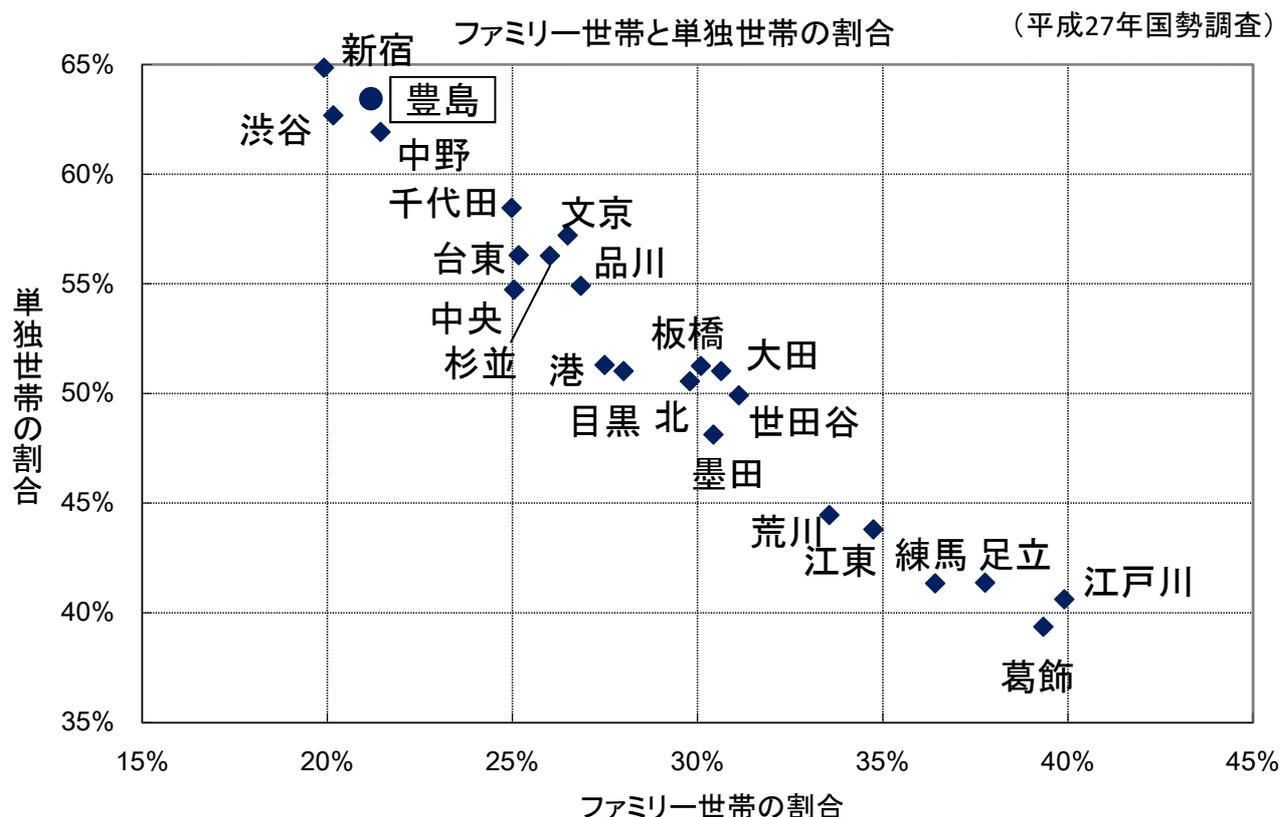
### 豊島区 世帯構成の推移(国勢調査)



### 23区 世帯構成の推移(国勢調査)



23区のファミリー世帯と単独世帯の割合を比べてみると、ファミリー世帯の割合が高いのは江戸川区、葛飾区、足立区、練馬区となっており、逆に単独世帯の割合が高いのは新宿区、豊島区、渋谷区、中野区となっている。ファミリー世帯が少なく、単身世帯が多い4区(新宿、渋谷、豊島、中野)については、前回検討会議(22年度国勢調査)に同様の特性を持つ区として比較検証したが、現在も同じ状況が続いている。



国立社会保障・人口問題研究所によると、東京都における世帯数の推移は、2014年4月推計で、2025年に681万世帯とピークを迎え、その後減少に転じるとしているが、全世帯に占める「単独世帯」の割合は、2010年の45.8% (292万世帯) から2035年には46.0% (304万世帯) とほぼ横ばいに推移していくと予測している。

国立社会保障・人口問題研究所による世帯数の推計

